



Hino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和3年12月発行 no.35

hino

【特集】

日野郡の農業

令和3年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰
増えています 野菜を導入し女性が活躍する農業法人

- 特殊伐採技術の「吊伐（つりきり）」を紹介します！
- 人口減少に立ち向かう集落の取組について
～集落交差点新たなチャレンジが生まれています～
- ◆中世・近世のたたら遺跡の発掘調査が行われました
- 鳥獣被害対策 トイレカメラの話①
- 日野郡で輝く人「こどものアトリエ ニキッス にちなん」代表 金森 弓束さん
- 新型コロナウイルス感染症
- 日野郡除雪オペレーター育成研修会・除雪業務団結式を開催しました！

鳥取県



増えています

野菜を導入し女性が活躍する農業法人

～ トマト、ピーマンの取組事例 ～

日野郡内の農業法人は、担い手が不足する地域農業の継続発展に大きな役割を果たしています。これらの法人は、これまで水稲中心の経営をしてきましたが、更なる収益確保や女性の活躍の場として、新たに野菜栽培に取組む法人が増えてきましたので、その一例を紹介します。

今後も、このような新しい取組が広がっていくことを期待しています。

（農）ファーム白谷（トマト）日南町白谷集落

平成26年に設立された同法人は、水田のほ場整備をきっかけに本年から10.5aでトマトの栽培を本格的に開始しました。栽培管理は集落内の女性11名が中心ですが、大半の方が、トマト栽培の経験がなく最初は2aの試作からスタートしました。

中には難しい作業もありましたが、作業工程ごとに、普及員が解説しながら指導の様子をスマートフォンで撮影してメンバーで共有したり、作業状況をノートに詳細に記録して振り返りができるよう整理するなど独自の工夫をしながら、不安を一つ一つ解消し、的確な作業や積極的な技術習得に取り組んでいます。栽培が進むにつれてメンバーの笑顔も増え、トマトづくりにやりがいを感じている様子がうかがわれます。



ファーム白谷の女性メンバー

（農）かがやき（ピーマン）江府町杉谷集落

今年度、鳥取県の優秀集落営農組織部門で知事表彰を受賞した同法人では、令和元年度から女性や高齢者も取組みやすい品目として普及所が推進しているピーマンを導入しました。経営の中で、水稲やソバの栽培管理は男性メンバーが担い、ピーマン栽培は女性リーダーを中心に地域の女性労働力をフル活用し、人の配置や栽培スケジュールを細かく管理しているのが大きな特徴です。

当初、リーダーの女性は責任を担うことに不安を抱えていましたが、普及所による勉強会や先進地視察への参加によって、徐々にメンバーをまとめられるようになった結果、栽培初年度から高収量をあげ、3年目となる本年は植付本数をこれまでの2倍となる1600本（約26a）に増やしました。効率よく作業ができるようになり、一人一人に自信が増えています。



ピーマンの出荷作業を担う女性メンバー

女性リーダーは、「収益性だけでなく、集落の女性が集まる場としてもピーマンを栽培する意義がある」と実感されており、今後、更なる発展が期待されています。

また、江府町の（農）すがさきが、この法人の取組を参考に新たにピーマン栽培を始めたほか、町が、法人を対象にピーマン栽培指導会を開催するなど、新たな動きが出始めています。

鳥取県畜産共進会（和種種牛の部）が開催されました

令和3年度鳥取県畜産共進会（和種種牛の部）が10月2日（土）に琴浦町の中央家畜市場で開催され、のべ39頭の和牛が5部門で日頃の改良の成果を競いました。日野郡からは8月27日（金）に開催された西部畜産共進会で上位入賞した日南町の山形美智也氏と中田誠氏の牛が出品されました。

その結果、山形氏出品の「ゆい」（若雌区の3：出品数は12頭）が優等賞3席、中田氏出品の「さら」と「なおみ」（親子セット区：出品数は2セット）が首席と活躍しました。

今後も日野郡で生まれた和牛の共進会等での活躍が期待されます。

首席となった中田氏のコメント
「今後とも新しい鳥取和牛の系統造成のために頑張っていきます」



特集

日野郡の農業

令和3年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰

～ 日野郡内で受賞された皆様をご紹介します ～

鳥取県農林水産業の発展を図るため、優れた技術及び経営の農林水産業者を知事表彰するものです。令和3年度は、6部門において日野郡の個人1名と2つの団体を含む42経営体・組織が表彰され、10月19日に鳥取市のとりぎん文化会館で表彰式典が行われました。

優秀集落営農組織



平成28年8月に、杉谷集落内の全戸が加入して設立しました。現在は、隣接する集落の農地も引き受け、約12.3haを経営しています。設立当初は水稲とソバのみでしたが、令和元年からは女性リーダーが中心となってピーマン栽培を開始したほか、水稲部門では、令和2年度から町の推進する特別栽培ブランド米「奥大山江府米」の栽培に取り組んでいます。

地域農業を活性化させるため、規模拡大や経営の多角化に取り組みながら、収穫祭や視察研修の実施など、法人活動を通じて世代を超えた交流が生まれ、地域の元気につながっています。

農事組合法人かがやき

（代表理事 川上 誠さん）（水稲、ソバ等：江府町杉谷）



未来を担う農林水産業者



石橋 弘充さん

（和牛繁殖：日南町阿毘緑）

生まれ育った阿毘緑で和牛繁殖を営むことが以前からの夢で、平成25年にUターン就農しました。平成29年に宮城県で開催された全国和牛能力共進会（5年に1度開催される和牛の全国大会）に「引き手」（牛をリードする役）として参加し、次回令和4年に鹿児島県で開催される大会に出品者として参加するために、日々頑張っています。

また、和牛ふれあい体験等を通じて、日南町の子供たちに和牛農家のことを知ってもらおうと共に、地域に根差した明るい農場を目指しています。

いきいき農林水産業組織



平成23年に、地元の農産物加工グループとして発足しました。グループのメンバーが育てたりんご等の農産物を使用し、町内外の企業や団体、個人とも連携しながら開発した加工品を町内の道の駅へ出荷するほか、香茸おこわ、ちまき、団子汁等の総菜を町内のイベントで提供しています。

総菜の味付けや材料の収穫の仕方など、地域の伝統を引き継いで作った商品は『日南町の母の味』と好評です。

取組を通じて、地域のみんなで楽しみながら集まる場ができ、健康づくりや生きがいづくりにも繋がっています。

阿毘緑特産品開発部会

（会長 林 富実代さん）（加工品開発：日南町下阿毘緑）



蜜蜂を飼育される方へのお知らせ

蜜蜂を飼育される方（趣味の養蜂を含む）は、養蜂振興法の規定により毎年1月31日までにその年の「蜜蜂飼育届（1月1日～12月31日の飼育計画）」を県に提出する必要があります。日野郡にお住まいの方は日野振興センターに提出してください。手続き等についてご不明な点がありましたら、下記の問合せ先にご連絡ください。



人口減少に立ち向かう集落の取組について

～集落支援で新たなチャレンジが生まれています～

人口減少が急速に進む日野郡の集落では、そのまま何もしなければ空き家が増えたり、さらには集落で暮らし続けることが困難になる可能性があります。日野振興センターでは、集落に出向きみなさんと座談会などで対話をさせていただきながら、住民自らが地域を守り、後継者を育て、持続可能な地域を作り上げる活動組織24団体のお手伝いをさせていただいています。日野郡今回はその活動事例を各団体の声を中心に紹介します。

5533クラブ(日南町宝谷集落) 女性会5人組

★宝谷みんなの食堂(地域で採れた食材を使った栄養たっぷり料理)

Data: 人口54人
世帯数: 29世帯
高齢化率: 64%



取組のきっかけ

宝谷集落は、独居、高齢者夫婦世帯が中心で食事も孤立となっている事から、高齢者の健康を心配した女性会(5533クラブ)が「何とかしたい」との思いで、こども食堂に習って、「みんなの食堂」で集いの場、健康づくりを行うこととしました。みんなの食堂で実績とノウハウを蓄積し、古民家を活用した農家レストランを目指しています。

取組

- ・高齢者に伝統料理や地域の食材を使ったなじみのある栄養バランスのとれた食事を、毎月1回「みんなの食堂」として提供する取組を行っています。
- ・ピザ窯をみんなで作り、参加者が自分のオリジナルピザづくりをして焼きたてピザを楽しみます。
- ・こんにやくづくり体験をして、ワイワイと口と手を使って老化防止といきがづくりに取り組んでいます。

みんなの声

・顔が見える食材を使った、彩りと健康に気遣った料理がおいしかった。料理を作っていた、5人の女性には頭が下がる思いです。初めて、ピザづくりを体験して楽しかったのと、焼きたてが食べられうれしかった。12月のこんにやくづくりの体験を楽しみにしています。

別所女子部プロジェクトチーム(日野町別所集落)

★別所にある写真を集めて昔懐かし思い出の写真展を開催

Data: 人口43人
世帯数: 21世帯
高齢化率: 60%



取組のきっかけ

別所集落は、あと継ぎがないお宅は空き家となり、人口も最盛期の3分の1に減ってしまいました。このままでは、集落の歴史、思い出、暮らしが失われ消えてしまうことになる。そのため集落にいる人も出てしまった人も、20年前に写真家が撮った写真で思い出の写真展を開き、一堂に集まり地域の未来について語るうとの思いで始めました。

取組

- ・農作業小屋をみんなで改造して、別所集落(カフェと昭和の音楽のある)美術館をつくりあげました。
- ・10/16,17日別所でみんなと暮らし「写真家みやちゃん」が20年前に撮った別所の人々を写真と映像で楽しむ写真展を開催しました。
- ・住んでる人出てしまった人など住民が一堂に集まり、昔話を花を咲かせ地域の将来について話し合いました。
- ・伝統料理のジャブ汁やこだわりのカフェ、抹茶などのふるまひもあり居心地のいい集いの場が出来ました。

みんなの声

・農業用倉庫をみんなで手作りして別所美術館になったことがうれしかった。昔の写真を元にして地域がつながり、みんなが集まり、昔話が出来、近況も聞くことが出来よかった。おもてなしも、ジャブ汁、抹茶、こだわりのコーヒーをいただき心もお腹もいっぱいになった。ずっと、残してほしい。(今後の予定)みなさんの要望から、3月末までに、もう一度開催を予定しています。

※別所集落出身者で現在松江にお住まいの方が、この取組を知り故郷のお役に立ちたいと、自分の趣味のこだわりのコーヒーを持参され、来訪者にふるまっていたくださいました。

江府町宮市原集落(江府町宮市原)

★美しい宮市原づくり・ムラづくりカフェ

Data: 人口28人
世帯数: 12世帯
高齢化率: 68%



取組のきっかけ

宮市原集落は、高齢化率約7割とこのまま何もしなかつたら集落消滅の危機を感じ、そのとき県が進めていた集落再生システム構築事業の支援を受けました。これにより、集落の強みは、立地、そしてみんなが守り続けてきた美しい景観と気づき「美しい宮市原」をキャッチフレーズにして取組むこととしました。

取組

- ・みんなで「美しい宮市原」の景観づくりに取組み、誇りを持って帰って来なくなる宮市原、住みたくなくなる宮市原を目指して頑張っています。
- ・今年3月からムラづくりカフェを開催して、みんなが集って百歳体操やおしゃべりカフェを開催しながら、集落が一つになって支えあいのムラづくりを進めています。

みんなの声

・ムラづくりカフェが出来てから定期的に集って、体操して、カフェでお喋りするの楽しい。もともと花作りが好きで、みんなと一緒に助け合いながらの花作りが楽しい。集落に一体感が生まれ、小さな生きがいになっています。

日野振興センターでは、集落支援、集落再生など他にも様々な地域づくり支援を行っています。ぜひ、ご相談ください。

日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

特殊伐採技術の「吊伐(つりぎり)」を紹介します!

山林で樹木を伐採するときは、チェーンソーで地面に近い位置を切り、斜面にそのまま**パタン**と倒します。ところが、住宅地など樹木を倒すスペースがないところで伐採するときは、周辺の障害物を避けるための**特殊な伐採技術**が必要になります。樹木に登り、樹木の上で枝や幹を切断したり、切った幹をロープで安全に吊下していくなど、これら一連の作業が「吊伐」と言われる伐採技術です。

海外ではこの特殊な伐採を行う人をアーボリスト(樹護士)と呼んでおり、樹木に登るときに自分の命を預けるハーネス(ロープを体に固定するベルト)など専用の道具も普及しています。日本でも海外メーカー製の専用道具が手に入りやすくなってきたこともあり、改めて注目されています。

作業の手順

特殊伐採(吊伐)の作業手順を説明します。

①安全に樹木に登る道具を身に着けます。



↑腰に装着したハーネスなど木登りの道具を拡大した写真

②道路沿いの民家に大きなスギが3本あり、中央のスギに人が登っていきます。



日野町舟場

③幹の先端を切離すとき、先端部が落下しないようロープで固定してから切断します。



④切断した先端部は落下せず吊下げた状態になり、地上の仲間が操作してゆっくりと下ろします。



こんな樹木に登ることも!

鳥取日野森林組合 特殊伐採チーム

特殊伐採ができる人は県内でもわずかですが、郡内では鳥取日野森林組合が活躍しています。

チームの要は神庭班長。山岳クライミングや高所作業の技術・知識と安全面での高い意識を持ってチームを率いています。



鳥取日野森林組合の特殊伐採チーム 左から初田副班長、神庭班長、池岡班長、石井さん

特殊伐採は、通常の伐採より危険が伴う上、切離す枝や幹の順番などの手順を誤るとやり直すことができないことから、チームワークや安全意識の向上が図られます。森林組合の建屋内に、天井まで届く樹木を立てた練習場をつくり、特殊伐採作業の前に手順をきちんと確認しています。

森林組合には、年間10件程度の特殊伐採の相談が寄せられており、本業である林業の作業スケジュールを調整しながら、要望に対応されるとのことで、今後もチームの活躍が期待されます。



こんな樹木に登ることも!

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125

★未来を生きる力を子どもたちに!
「こどものアトリエ ニキッズ にちなん」
代表 金森 弓束さん (日野郡日南町多里)



「こどものアトリエ ニキッズ にちなん」は、2013年に発足した、子どもと親のための遊びの場です。月に2回、1歳から小学生までを対象に、自由に絵を描いたり、自然の中で遊ぶ体験を通じて、健やかに成長する力を発揮できるようにサポートする取組を行っています。

代表の金森さんは、京都生まれ京都育ち、大学では児童文学を専攻、その後、静岡県に移住し自由画(子どもの個性や創造性を尊重し、欲するままに描かせる絵画)による児童教育に出会い、以来、子育て支援の活動を行ってきました。静岡県では、自然を活かした遊びを求めて多くの親子が都会から訪れることに驚いたそうです。

2013年4月に、縁あって日南町に移住してから、子どもが絵を描く会の立ち上げを思い立ち、多里まちづくり協議会をはじめ地域の皆さんの協力により、6月には活動を開始し今年で9年目です。

ニキッズの拠点は、廃校となった小学校の体育館や公園など。子どもたちは、カラフルな水彩絵の具で白い画用紙に自由に描いたり、自然の中で川遊びをしたり、のびやかに活動しています。

金森さん「子育て中の親にとって、子どもの気持ちを理解することは大切です。子どもたちは、自由に絵を描くことで、心を表現したり、ストレスを発散することもできます。ニキッズでの活動を通じて、生き抜く力を培ってほしいと願っています。」

※ニキッズの活動は、適切な新型コロナウイルス感染症の感染予防対策をとった上で行われています。

〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



日南町は自然が多く、子育ての環境に恵まれています。ここで育った子どもたちは、社会の荒波の中でも自分の方で生きていく力を養うことができると思います。



子どもの居場所を作ります。



自然の中で絵を描く。

新型コロナウイルス
感染症

新型コロナウイルス感染症は、正しい情報に基づき対策を進める必要があります。あなたの疑問に、鳥取大学医学部副学部長 ウィルス学分野 景山誠二教授がお答えします!



Q ワクチン接種が2回完了したら、感染対策は不要ですか?

A 今後、第6波がくる可能性がありますので、できる感染対策は全て行いましょう。

ワクチンは、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策として最も有効ですが、完全に感染が防げるわけではありません。不織布マスクの正しい着用、ソーシャルディスタンスの確保、換気の徹底、流水と石鹸等による手洗いなど、感染対策としてできることは全て行いましょう。

11月に新しく発見された変異株であるオミクロン株が日本国内でも確認されましたが、基本的な対策はこれまでと変わりません。人の交流が活発になる年末年始も、一人一人がしっかり対策をとってください。



Q ワクチンの3回目接種は受けた方がよいのですか?

A 3回目接種(ブースター)は、特に65才以上の方に高い効果が認められています。

世界で最もワクチン接種が進んでいるイスラエルでブースターを行ったデータを分析したところ、65才以上の方は、最も高い効果が得られたことが明らかになりました(CDC:アメリカ疾病予防管理センター発表)。

また、アメリカ合衆国保健福祉省食品医薬品局(FDA)は、65歳以上の方と、50歳から65歳までの免疫不全の方や基礎疾患のある方、患者と接する医療関係者へのブースターを推奨しています。

特に高齢者の皆さんは、2回の接種では十分な抗体を長期間維持できない傾向にありますので、今後、行政から3回目接種のお知らせが届いたら、かかりつけ医と相談の上、接種をすることをお勧めします。

ブースターの最大の目的は重症化を防ぐことです。上記以外の方も、各人がメリットとリスクのバランスについて考慮し、国や自治体からの信頼できる情報に注意しながら検討してください。

3回目
接種に
ついて

2回目接種から概ね8カ月以上経過した方を対象に、全国の自治体で3回目接種を行うことが決定されました。医療従事者をはじめ、重症化リスクの高い高齢者の方や基礎疾患のある方などに対しては、特に接種が推奨されています。日野郡3町も順次接種を進めていく準備を整えていますので、各町からのお知らせをお待ちください。



〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



米子市文化財団
高機統括調査員

「福長の遺跡を調査したところ、これまで伯耆地域では見たことのない構造の製鉄炉が見つかりました。他地域と人や技術の交流があったことが想像できます。」

◆中世・近世のたたら遺跡の
発掘調査が行われました

ふくながし 日野町福長下モノ原遺跡 / さいのはら オノ原たたら跡

たたら製鉄は、砂鉄と木炭を原料とする製鉄法で古くは平安時代から行われていたと言われていました。我国屈指の良質な砂鉄に恵まれた日野郡は鉄の一大産地で、これまでも、近世から近代にかけての遺跡が数多く発見されてきました。今回、新たに発掘調査が行われた二つの遺跡は、それぞれ中世と近世のもので、日野郡のたたら史を知る上で貴重な遺跡であることがわかりました。当時の住民の息吹が感じられるロマンある発見を御紹介します。

福長下モノ原遺跡

日野町福長で発見された、鎌倉時代から室町時代のたたら製鉄炉跡では、製鉄炉1基、鉄滓(てっさい)*1を埋納した土坑(どこう)1基などが見つかりました。製鉄炉の両側には、風を送る竈(ふいご)の土台(竈座:ふいござ)の縁に土留め用の石が並べられており、中国地方では初めて見られる形式であることがわかりました。

更に深く掘り進めると、地下構造が現れました。湿気を避けるため、黒ボク土の上に砂を敷き、さらにその上に粘土を貼り、乾燥させて乾燥させる工程が4度繰り返して作られた「本床(ほんど)状遺構」*2となっています。

その両横には、「小舟(こぶね)状遺構」と呼ばれる溝があり、中には製鉄炉の炉壁の一部が詰められています。備中・安芸の影響を受けながらも日野郡独自の構造であることが窺える貴重な発見となりました。

*1 製鉄時に生じる不純物 *2 江戸時代以降の「大舟(おおぶね)状遺構」に似た形状の遺構



地下構造の上部



地下構造の下部

※これらの遺跡は、道路や橋梁工事によりコンクリート擁壁で覆われ、今後は見ることはできません。

〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



日野町
教育委員会事務局
若林主任

「オノ原では、たたら場の跡を断面で見ることができ、興味深く思いました。」

オノ原たたら跡

日野町下菅で昭和58年に、新旧2基の床釣(とこつり:製鉄炉の地下構造)が同じ場所に造り替えられた近世の遺構が発見されましたが、今回初めて詳しい調査が行われました。

床釣のひとつからは18世紀前半頃の陶胎染付(とうたいそめつけ)*が発見され、床釣がそれ以降のものだと判明しました(①)。焼させた土と鉄滓を交互に積み重ねて作られています。

もう一つは、砂と鉄滓を混ぜた層と、その上に、焼土と砕いた花崗岩を混ぜた層を重ねた2重構造となっており、19世紀前半のものだと推定されます(②)。

新しい時代の層の方が複雑な構造になっていることから、たたら技術の進歩を知ることができます。

この遺構からは、キセルの吸い口や陶器など、たたらに携わる人たちが使用していたと思われる品々も出土し、当時の生活を推測することができます。

*17世紀に出現した九州の陶器で、18世紀に入ってから本格的に全国に流通しました。



陶器



床釣①

床釣②

キセルの吸い口

鳥獣被害対策

トレイルカメラの話①

日野郡鳥獣被害対策
実施隊 木下卓也



畑を荒らす動物の見極めなどに大変役に立つのがトレイルカメラ(センサーカメラ)です。最近ではホームセンターでも販売しており、インターネット通販では5千円以下の物もあるので、個人でも購入しやすくなりました。でもどれを選べば良いのか分からなくなるくらい、すごい機種数があります。某大手通販サイトでは100機種以上あります…。そこで、トレイルカメラの構造や機能、選ぶポイントなどを紹介していきます。

トレイルカメラとは動物の観察などに用いられるカメラのことで、無人の状態でも撮影できる自動性と屋外に設置しても壊れない防水性と耐久性が必要です。構造としては、動物検知センサー、カメラ、赤外線ライトが前面についたシンプルな機械です。赤外線センサーが人や動物の動きを検知するとカメラが作動して撮影が始まり、任意の時間後に撮影を停止します。撮影データはSDカード等に保存され、自宅のテレビやパソコンで見ることができます。

次回は「選ぶ時のポイント」です。



〒日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399

日野郡除雪オペレーター育成研修会・ 除雪業務団結式を開催しました!

冬季除雪シーズンを前に、除雪車両のオペレーターの育成及び技術向上のための研修会が、11月18日(木)に日野振興センターで開催されました。

これは日野郡の冬季除雪の担い手不足を解消し、熟練オペレーターの技術を地域の若い世代に継承していくために、平成29年度から始められた取組です。



研修会は鳥取県日野建設業協会が主催し、会員企業の従業員など8名が参加しました。冒頭に鳥取県日野建設業協会の住田孝昭会長から挨拶があり、「日野郡の除雪は県民から高い評価を受けている。本日の研修でしっかり知識を習得し、今後も技術の高い除雪を続けていって欲しい。」とのメッセージがありました。

研修では、最初に除雪車両の特性や操作の注意点などについて、講師から動画や写真、イラストを使ったわかりやすい説明がありました。

続いて参加者は除雪車両を保管している日野町にある本郷車両基地に移動し、車両に試乗したりチェーンの補修作業等を行いながら、講師の説明に熱心に耳を傾けていました。



研修会の後は、日野郡の除雪業者、役場関係者、日野振興センター関係者で今年度の除雪に向けて団結式を行いました。団結式では、日野振興センター 栃本所長からの激励の挨拶のあと、除雪業者代表が決意表明を行い、参加者一同は来たる除雪作業に向けて氣勢を上げました。

今回の研修会は、冬季除雪シーズン中に、実際に積もった雪を掻く実技研修を予定しています。

冬季除雪作業に、ご理解と ご協力をお願いします

私たち日野振興センターでは、冬期における日野郡の道路交通確保のため、役場や除雪業者と連携・協働して、今年も日野郡3町の道路除雪に取り組めます。

作業にあたり4点のご理解ご協力をお願いします。

② 深夜・早朝の作業にご理解をお願いします。



③ 家の前の雪かきは各家でお願いします。



① 路上駐車は除雪作業の妨げとなりますので絶対にしないでください。



④ 道路に雪を出すと歩行者やバイクが滑って転倒する危険があるのでやめましょう。



除雪に関する問い合わせ先 日野郡土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2047 (夜間、休日は 72-0321)



表紙写真

タイトル:愛の鳥「オシドリ」

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:美しく愛らしい姿を見せる「オシドリ」。夫婦仲の良い例えで知られており、見ていて愛と元気をもらいます。渡り鳥で10月に飛来し、4月に北帰行するまで日野町根雨の日野川で過ごします。1月頃になると千羽にも。観察小屋から間近で見られるのは全国でもここだけです。オシドリは鳥取県・日野町の鳥に指定。鳥の住む自然環境を守り、友愛の心を持ちたいものです。